

蔵持寺ノ前遺跡

—宅地造成に伴う蔵持寺ノ前遺跡第2次調査—

糸島市文化財調査報告書

第 32 集

2024

糸 島 市



蔵持寺ノ前遺跡第2次調査調査区全景（南側上空から）



蔵持寺ノ前遺跡第2次調査調査区全景（上空から）

序

本書は令和4年度に糸島市蔵持における宅地造成に伴い実施した蔵持寺ノ前遺跡第2次調査の発掘調査成果をまとめたものです。

本遺跡が所在する蔵持地域は弥生時代には甕棺などが発見され、その後中世や近世には環濠屋敷があったことがわかっています。本調査でも弥生時代を中心とした遺構や遺物が出土しており、当時の様子を一部垣間見ることができました。

本書は、このような貴重な成果をまとめ、皆様に公開するものです。当地の歴史を解明する上での一助になれば幸いです。

なお、末筆となりましたが、発掘調査にあたってご理解とご協力を頂きました周辺住民の方々ならびに報告書作成にあたって、ご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

令和6年3月31日

糸島市長
月形 祐二

例言

1. 本書は宅地造成に伴い、令和4年度に糸島市が行なった蔵持寺ノ前遺跡第2次調査の発掘調査の記録である。
2. 蔵持寺ノ前遺跡は糸島市蔵持に所在し、約476㎡にわたって遺構や遺物を確認、発掘調査を行なった。
3. 遺構の実測にあたっては秋田雄也が行なった。
4. 遺構の写真は空中写真を(有)空中写真企画に委託し、その他は秋田が行った。
5. 遺物の復元は、田中阿早緑、藤野さゆり、蔵田和美、内山久世、山崎嵩雄、田尻裕泰、内場まきよ、山口仁美が行った。また、遺構、遺物のトレースは藤野、内山が行った。
6. 遺物の実測は秋田、写真撮影は栗野翔太、田中の協力を得て秋田が行った。
7. 本書に掲載する全体図及び遺構図で使用した座標は世界測地系平面座標第Ⅱ系に準拠した。また、図中に使用する方位は国土座標の座標北で、真北から0° 19'度西偏している。
8. 本調査に伴う出土資料及び記録類は糸島市に収蔵保管し、利用に供する予定である。
9. 本書の執筆及び編集は、秋田が行った。

本文目次

第1章	はじめに	
Ⅰ.	調査に至る経緯	1
Ⅱ.	調査の組織	1
第2章	位置と環境	2
第3章	調査の記録	
Ⅰ.	調査の概要	5
Ⅱ.	遺構と遺物	5
(1)	溝	5
(2)	ピット	10
(3)	包含層	10
(4)	表採遺物	10
第4章	まとめ	13

挿図目次

第1図	糸島市の所在地	2
第2図	糸島市主要遺跡分布図 (1/50,000)	3
第3図	蔵持寺ノ前遺跡と周辺の遺跡群 (1/5,000)	4
第4図	蔵持寺ノ前遺跡第1次調査及び第2次調査の位置 (1/1,200)	6
第5図	蔵持寺ノ前遺跡第2次調査調査区全体図 (1/300)	7
第6図	調査区南壁土層図 (1/60)	8
第7図	溝平面断面図 (1/20)	9
第8図	4号ピット平面断面図 (1/20)	10
第9図	出土遺物実測図1 (1/3)	11
第10図	出土遺物実測図2 (1/3)	12

図版目次

巻頭図版1	蔵持寺ノ前遺跡第2次調査調査区 全景(南側上空から)	図版3-1	4号ピット遺物出土状況
巻頭図版2	蔵持寺ノ前遺跡第2次調査調査区 全景(上空から)	図版3-2	蔵持寺ノ前遺跡第2次調査出土遺物①
図版1-1	蔵持寺ノ前遺跡全景(南東上空から)	図版4	蔵持寺ノ前遺跡第2次調査出土遺物②
図版1-2	蔵持寺ノ前遺跡第2次調査調査区 全景(上空から)	図版5	蔵持寺ノ前遺跡第2次調査出土遺物③
図版2-1	蔵持寺ノ前遺跡第2次調査調査区 全景(南西から)	図版6	蔵持寺ノ前遺跡第2次調査出土遺物④
図版2-2	溝完掘状況	図版7	蔵持寺ノ前遺跡第2次調査出土遺物⑤
		図版8	蔵持寺ノ前遺跡第2次調査出土遺物⑥

第1章 はじめに

I.調査に至る経緯

令和4年5月31日付で、糸島市蔵持722-1番地の土地所有者から宅地造成工事2,746㎡に関して、埋蔵文化財発掘調査の通知（文化財保護法第93条第1項）が、糸島市地域振興部文化課に対して提出された。

対象地周辺は周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれ弥生時代の甕棺墓のほか、中近世の環濠屋敷などを確認した地域であることから、事業対象区の試掘調査が必要な旨を回答した。試掘調査は地権者承諾の元に令和4年6月1日に行い、その結果、ピットを確認し、遺構や遺物が確認されたことから、遺跡が破壊される場合、記録保存のため発掘調査が必要であることが明らかとなった。

文化課は、試掘調査結果に基づき、開発側と協議を行い、住宅部分については、基礎が造成盛土に収まる建築とし、道路部分のみを調査対象とすることで合意し、発掘調査対象面積は476㎡となった。発掘調査は令和4年11月2日に着手し、令和5年2月20日に終了した。

II.調査の組織

発掘調査および報告書作成に係る組織は以下のとおりである。

調査主体者	糸島市
調査年度	蔵持寺ノ前遺跡（糸島市蔵持722-1番地）
発掘調査	令和4年度
総括	地域振興部長 波多江修士 文化課長 村上 敦 文化課長補佐兼文化財係長 河合 修
事前審査	同 文化財係 主幹 瓜生 秀文
調査担当	同 文化財係 主事 秋田 雄也
報告書作成	令和5年度
総括	地域振興部長 波多江修士 文化課長 村上 敦 文化課長補佐兼文化財係長 河合 修
報告書担当	同 文化財係 主任 秋田 雄也

第2章 位置と環境

糸島市は福岡県の西端に位置し、西は唐津市、南は佐賀市と境を接する。

蔵持寺ノ前遺跡は東の雷山川、西の多久川の2つの河川に挟まれた南部の脊振山系から伸びる細長い丘陵部に位置している。

周辺における主な遺跡としては現在の雷山小学校にあたる蔵持遺跡、その北側に位置する蔵持古屋敷遺跡や蔵持境遺跡がある。これらの遺跡は弥生時代～古墳時代にかけての集落跡や甕棺墓などが確認されている。

本遺跡の北側では有田塞ノ本1号墳、南西側の丘陵では香力古墳群など古墳も多く築造されている。有田塞ノ本1号墳は、熊野神社本殿の裏に所在し、全長約30mの古墳時代前期の前方後円墳である。古墳に近い蔵持古屋敷遺跡では古墳時代前期の集落跡が確認されており、古墳との関連性が指摘できる。香力古墳群は2支群ある。天神前支群は3基の後期古墳が現存し、1・2号墳は小型の前方後円墳である。梶原支群は6～7世紀初頭に築かれ、1～3号墳が発掘調査されている。1・2号墳は方墳ないしは不整形の円墳で、3号墳は方墳である。1号墳は複室構造の石室を持ち、心葉形鏡板、杏葉が出土している。多久川流域の後期古墳からは杏葉など馬具が多く出土しており、同流域の古墳の特徴として挙げられる。

中世には蔵持遺跡や蔵持古屋敷遺跡、蔵持境遺跡などで中世から近世初頭にかけて、環濠居館が確認されている。蔵持境遺跡では掘立柱建物と区画溝が検出され、貿易陶磁が出土している。蔵持地域は古屋敷や北屋敷、小路口など村や屋敷にちなんだ地名が残り、小字界が条理の区割りを残した区割りとなっている（江野編2002）。高祖城を築いた中世原田氏の本拠地である東地域も近く、中世～近世初頭には周辺に多くの屋敷群が築かれていたと考えられる。

<参考文献>

岡部裕俊編1991『井原遺跡群』
前原町文化財調査報告書第35集
前原町教育委員会

瓜生秀文編1993『蔵持古屋敷遺跡 高祖遺跡群Ⅱ』前原市文化財
調査報告書第46集 前原市教育
委員会

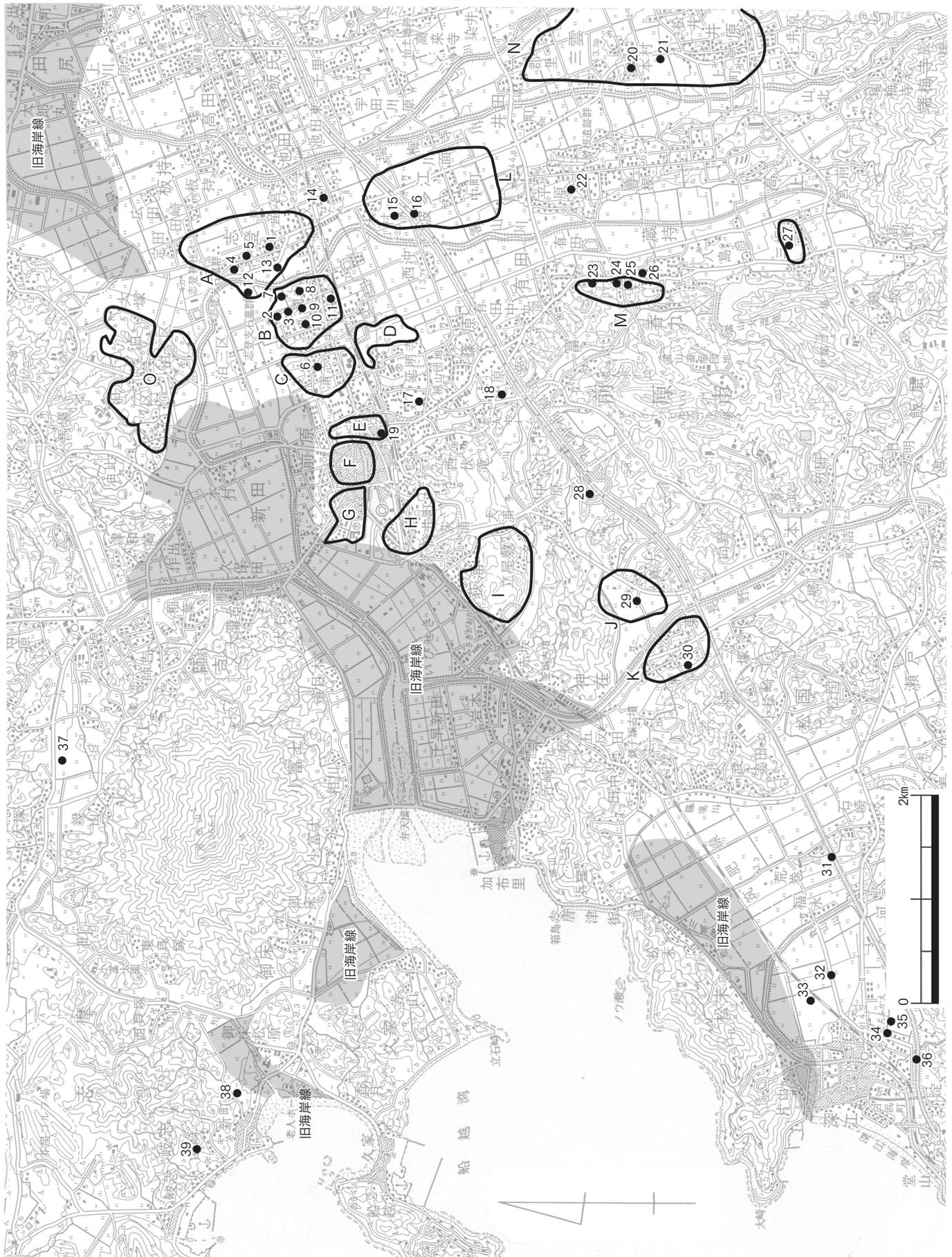
瓜生秀文編2001『蔵持境遺跡』

前原市文化財調査報告書第74集 前原市教育委員会

江野道和編2002『多久川流域の遺跡群』前原市文化財調査報告書第79集 前原市教育委員会

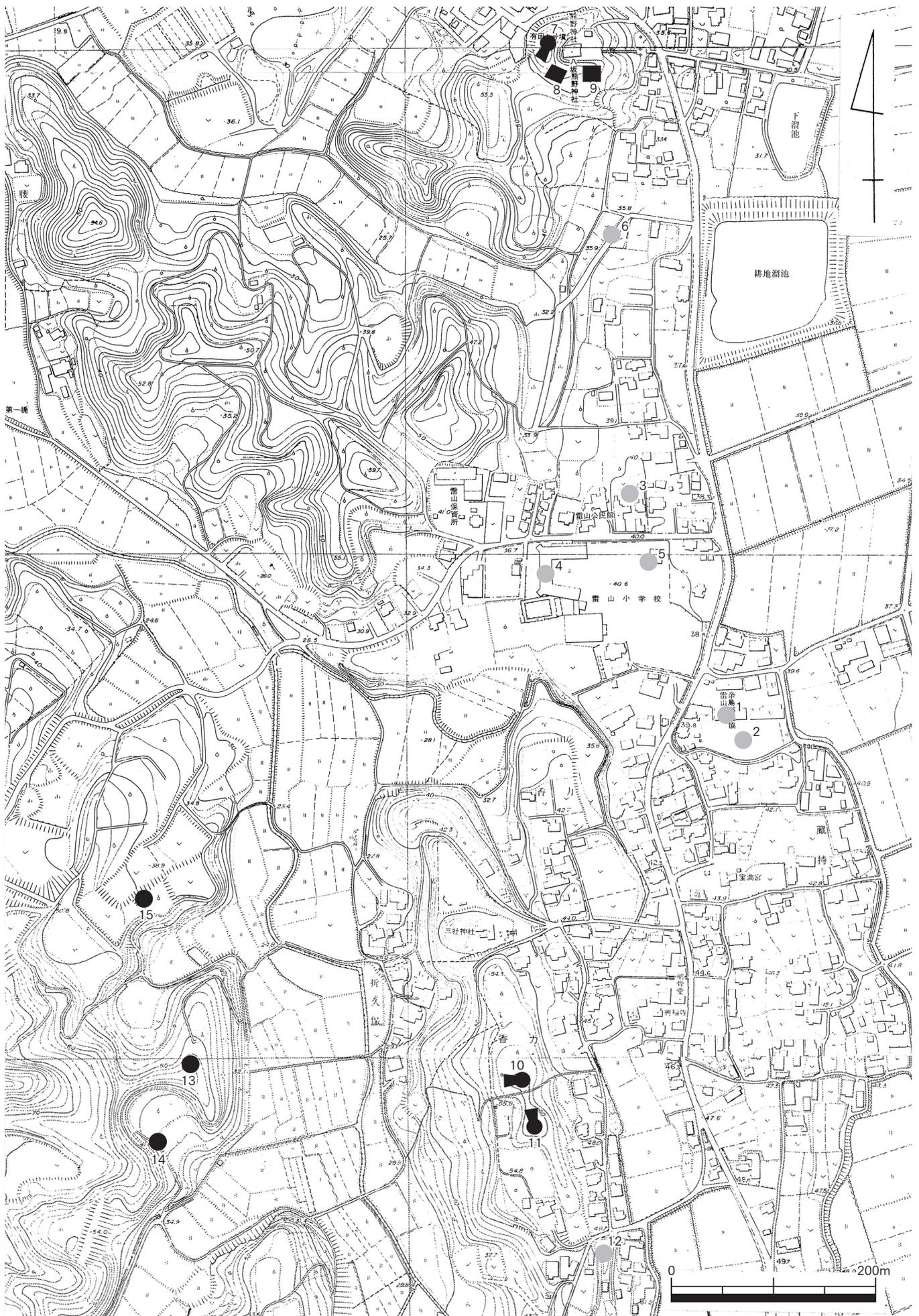


第1図 糸島市の所在地



第2図 糸島市主要遺跡分布図(1/50,000)

- 1.志登橋本遺跡 2.潤丸田遺跡 3.潤古屋敷遺跡 4.志登尾北遺跡 5.志登蓮輪遺跡 6.浦志本村遺跡 7.潤地頭給遺跡 8.潤中町遺跡 9.潤番田遺跡 10.潤神社古墳 11.潤吉丁田遺跡 12.志登支石墓群 13.志登松本遺跡 14.池田井田遺跡 15.波多江丹波守屋敷遺跡 16.波多江遺跡 17.篠原新建遺跡 18.上罐子遺跡 19.上町古墳 20.三雲南小路遺跡 21.井原ヤリミゾ遺跡 22.平原遺跡 23.蔵持境遺跡 24.蔵持古屋敷遺跡 25.蔵持遺跡 26.蔵持寺ノ前遺跡 27.三坂七尾遺跡 28.奈良尾遺跡 29.東五反田遺跡 30.東下田遺跡 31.石崎・曲り田遺跡 32.木舟・三本松遺跡 33.木舟の森遺跡 34.深江・井牟田遺跡 35.深江城崎遺跡 36.塚田遺跡 37.一の町遺跡 38.御床松原遺跡 39.海徳寺遺跡
- A.志登遺跡群 B.潤遺跡群 C.浦志遺跡群 D.篠原東遺跡群 E.上町向原遺跡群 F.北本町遺跡群 G.北新地遺跡群 H.筒井町遺跡群 I.荻浦遺跡群 J.東五反田遺跡群 K.東遺跡群 L.波多江遺跡群 M.蔵持遺跡群 N.三雲・井原遺跡 O.泊遺跡群



1.蔵持寺ノ前遺跡第1次調査地点 2.蔵持寺ノ前遺跡第2次調査地点 3.蔵持古屋敷遺跡 4.雷山小学校遺跡 5.蔵持遺跡 6.蔵持境遺跡 7.有田1塞ノ本1号墳
 8.有田塞ノ本2号墳 9.有田塞ノ本3号墳 10.香力天神前1号墳 11.香力天神前2号墳 12.香力天神前3号墳 13.香力梶原1号墳 14.香力梶原2号墳
 15.香力梶原3号墳

第3図 蔵持寺ノ前遺跡と周辺の遺跡群(1/5,000)

第3章 調査の記録

I.調査の概要

本調査地の北側で行った蔵持寺ノ前遺跡第1次調査では、中世の掘立柱建物跡が1基検出され柱穴からは土師器皿や青磁碗が出土している。掘立柱建物跡の北側には溝が建物に並行するように検出されており、掘立柱建物に伴う溝と考えられる。

今回の調査では弥生時代の溝と柱穴、包含層が検出され、弥生時代中期後半の土器が出土している。地形は全体として東側に下がる。調査区の東西に2条の浅い谷があり、旧地形は起伏に富む。谷の底はグライ化している。近隣の状況から中世の遺構が期待されたが、大きく削平されており、遺構の検出には至らなかった。

II.遺構と遺物

(1)溝(第7図)

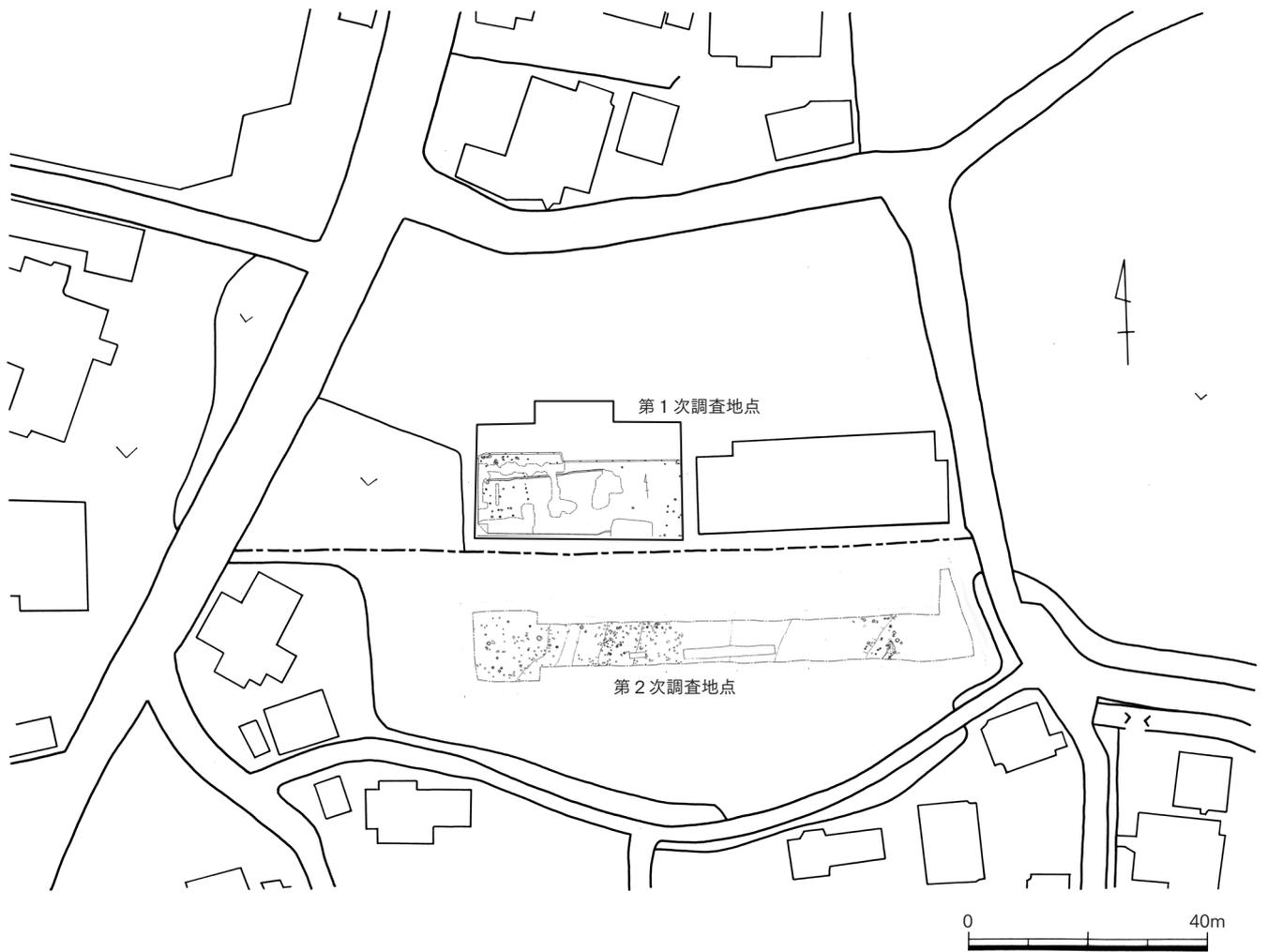
調査区東側で検出され、長さ2.55m+ α 、幅1.07m、深さ0.8mを測る。溝から出土した土器は弥生時代中期後半がほとんどであり、包含層出土遺物と時期差はあまり見られない。出土土器は上面(⑩層)と溝の内部出土の土器に分けて取り上げている。

出土遺物(第9図)

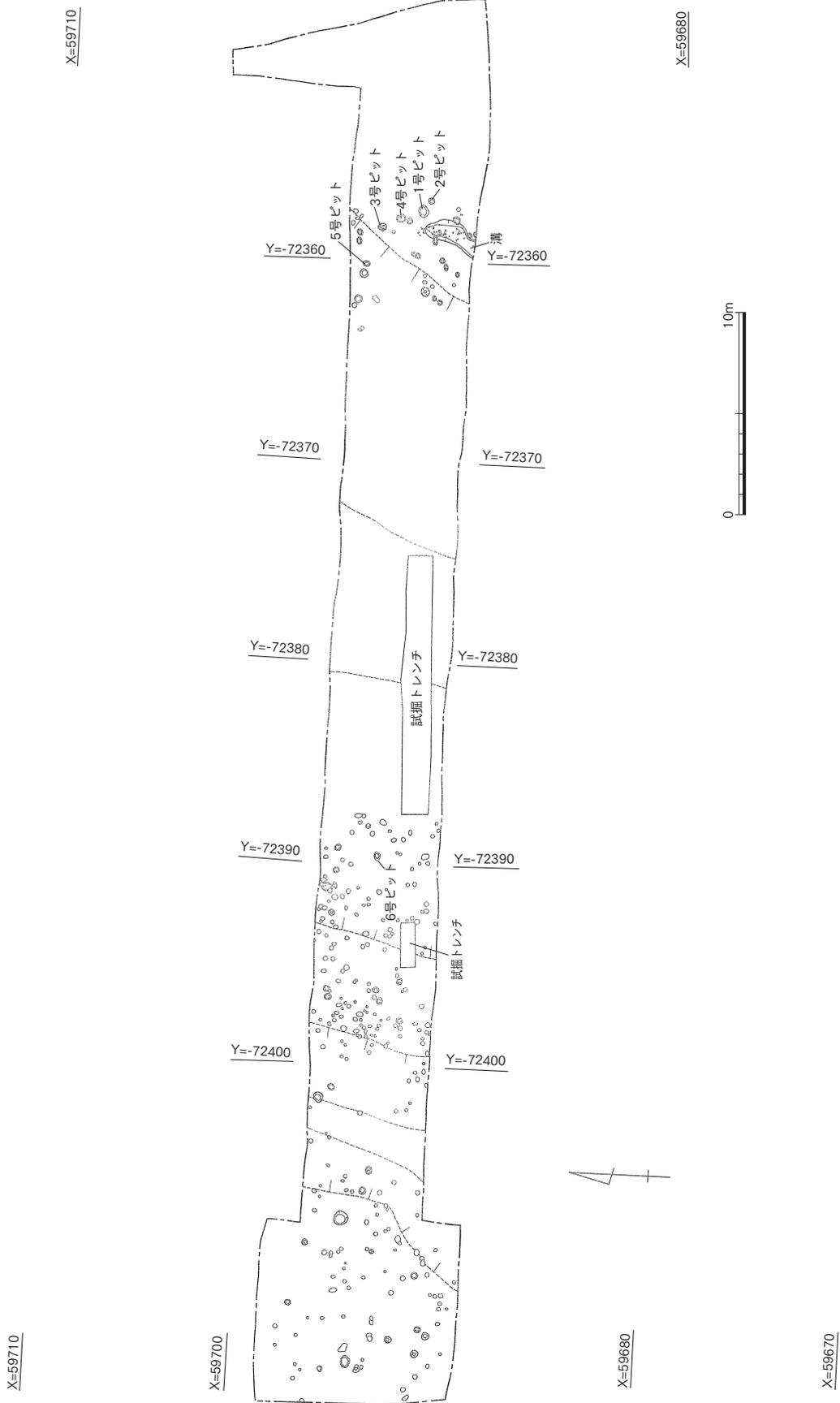
1~10は溝上面(⑩層)から出土、11~18は溝の埋土から出土した遺物である。1、2は袋状口縁壺の口縁部である。1は復元口径16.0cmで摩滅が激しく調整不明瞭である。2は復元口径14.0cmで、ヨコナデを施す。3~7は甕の口縁部である。3は逆L字口縁で、頸部に細い断面三角形の突帯を施す。復元口径27.6cmで、摩滅が激しく不明瞭ではあるが、ヨコナデを行う。4は3と比べると口縁上部がやや平坦。復元口径26.4cmで、ヨコナデを行う。5は復元口径17.0cmで3、4と比べると小型である。6は胴部に向かう開きがやや狭いか。7は口縁端部が短いと推定できる。5、6と比べると器壁が厚い。頸部の下に突帯貼付痕が残る。8は壺もしくは甕の底部か。外面に指頭痕が残る。9、10は壺もしくは甕の胴部である。胎土が他の出土土器と比べると精緻で、精製土器と思われるが、摩滅が激しく調整不明瞭である。胴の中央部とみられ器壁が薄手である。7のみ弥生時代中期中頃で、他は弥生時代中期後半である。

11は甕の口縁部で端部がやや上を向く。復元口径は29.8cmでヨコナデを施す。12はやや小型の甕の口縁部である。復元口径20.2cm、外面はヨコナデを行う。13、14は壺もしくは甕の底部である。13は外面底部にススが付着する。14は外面にヨコナデ、内面はナデを施す。14と比べると器壁が厚い。15は高杯の口縁部で、端部が「く」の字を呈し外反する。復元口径29.7cmでやや大型である。器壁の摩滅が激しく調整が不明瞭である。同型式の高杯は小笹遺跡(福岡市中央区)で出土しており、弥生時代中期後半を示す。本土器も弥生時代中期後半に位置づけられる。16は高杯の脚部である。内外面共にナデを施す。

17は器台で復元口径10.2cmを測る。外面はナデを施すが、内面は大きく剥離している。



第4図 蔵持寺ノ前遺跡第1次調査及び第2次調査の位置(1/1,200)



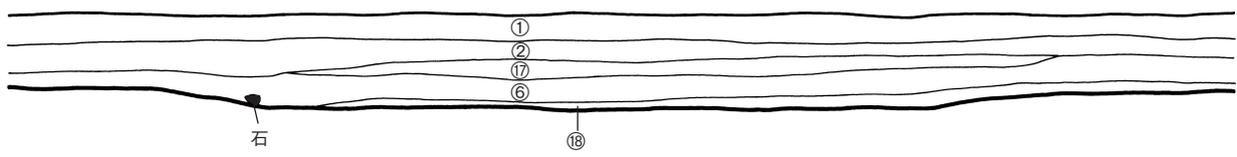
第5図 蔵持寺ノ前遺跡第2次調査調査区全体図(1/300)

西

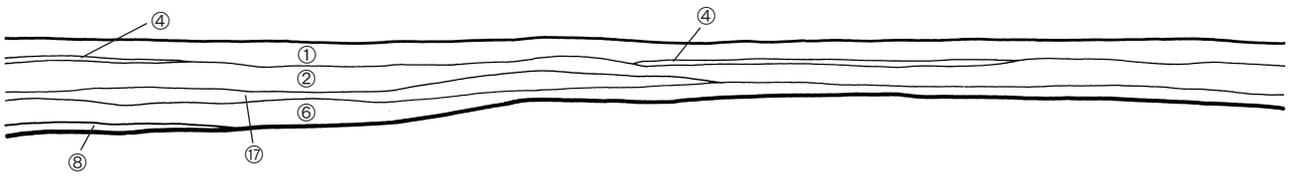
39.500m



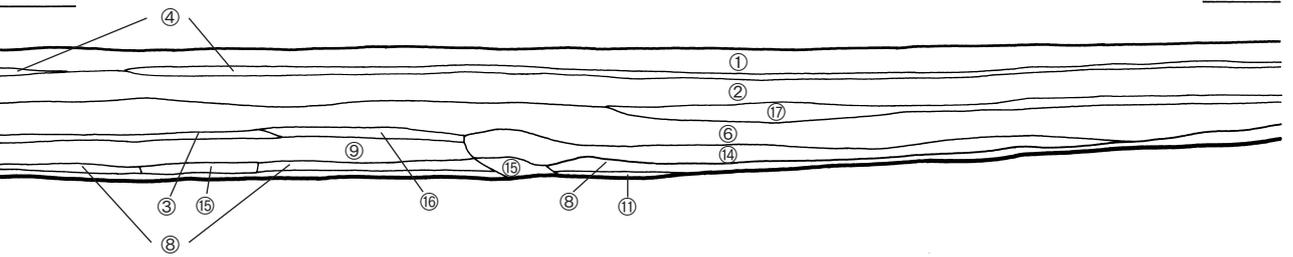
39.500m



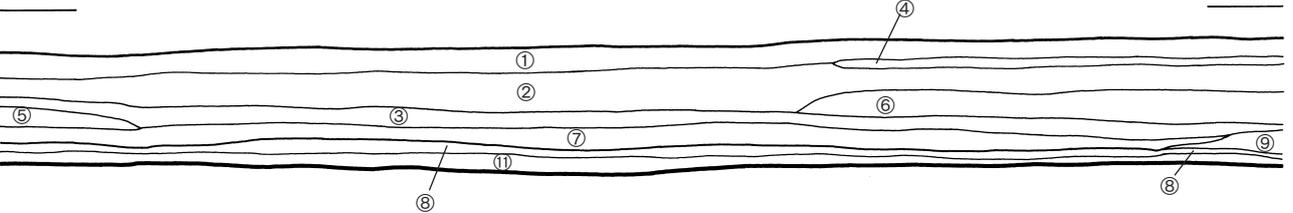
39.500m



39.500m

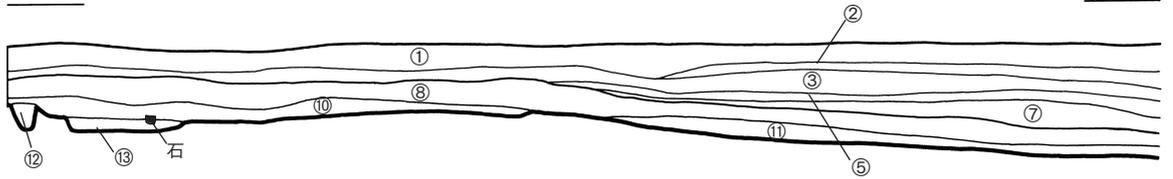


39.500m



東

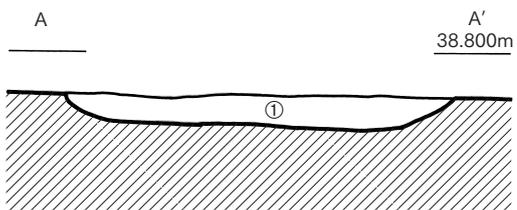
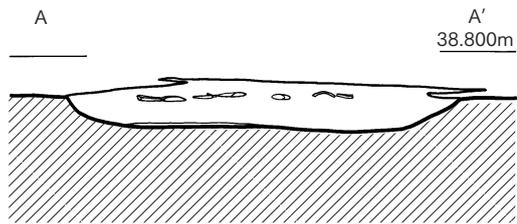
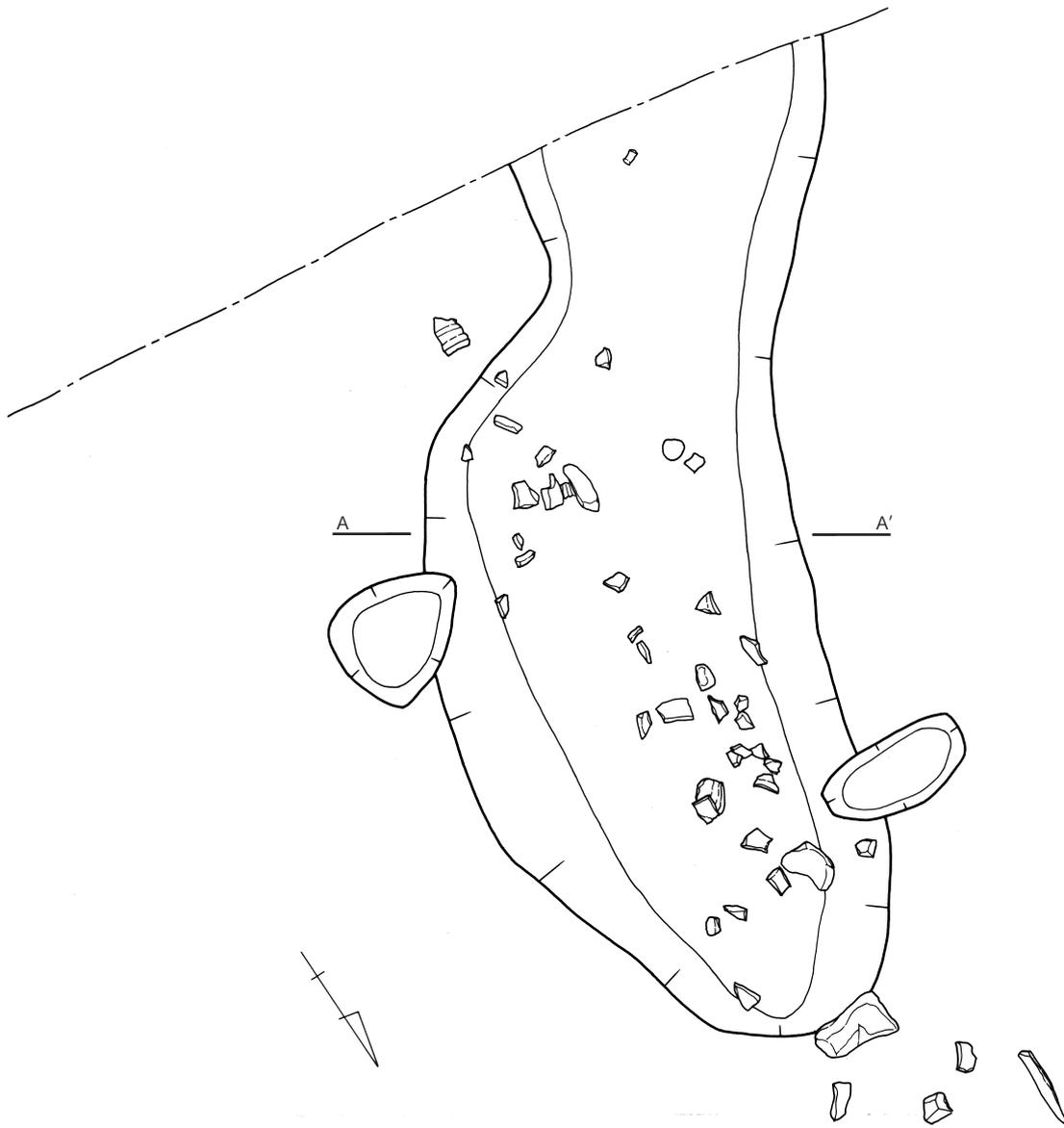
39.500m



- | | | |
|----------------|------------------|----------------|
| ①暗灰茶褐色土 (表土) | ⑥黒色土 (弥生中期後半包含層) | ⑭暗灰褐色砂層 (洪水砂層) |
| ②暗灰色土 | ⑨暗灰褐色土 | ⑮暗灰褐色砂層 (洪水砂層) |
| ③暗灰茶褐色土 (鉄分含む) | ⑩暗灰色土 | ⑯灰茶褐色砂質土 |
| ④暗茶褐色土 | (鉄分含む、弥生中期後半包含層) | ⑰灰褐色土 (鉄分多く含む) |
| ⑤灰褐色土 | ⑪暗灰色砂層 (谷底面) | ⑱暗黒褐色土 (礫を含む) |
| ⑥暗灰色土 | ⑫暗黒灰色土 (ピット埋土) | |
| ⑦黒灰色砂層 (洪水砂層) | ⑬暗灰色土 (溝埋土・鉄分含む) | |



第6図 調査区南壁土層図 (1/60)

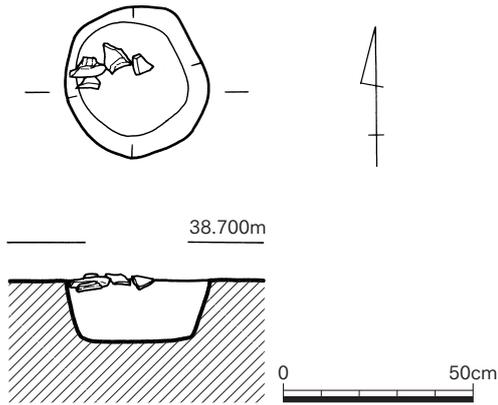


①暗灰褐色土（鉄分含む）



第7図 溝平断面図 (1/20)

口縁端部は指押さえを行う。



第8図 4号ピット平面断面図 (1/20)

(2)ピット (第5図)

今回の調査では直径20cmに満たないような非常に小形のピットが多数検出されているが、ほとんどが攪乱に伴うもので、遺物の出土したピットは少ない。遺物の出土した1～3、5～6号ピットについても実測に耐えない細片ばかりであった。

4号ピット (第8図)

調査区東側、溝状遺構の北側で検出された。直径38.0cmで埋土からは弥生時代中期後半の土器が出土した。

出土遺物 (第9図)

18は鋤先口縁壺の口縁部である。復元口径23.7cmで、内面に一部爪の痕が残る。胎土が精緻で、精製土器と考えられる。19は壺頸部である。内外面にナデを施すが、やや不明瞭である。18、19ともに弥生時代中期後半である。

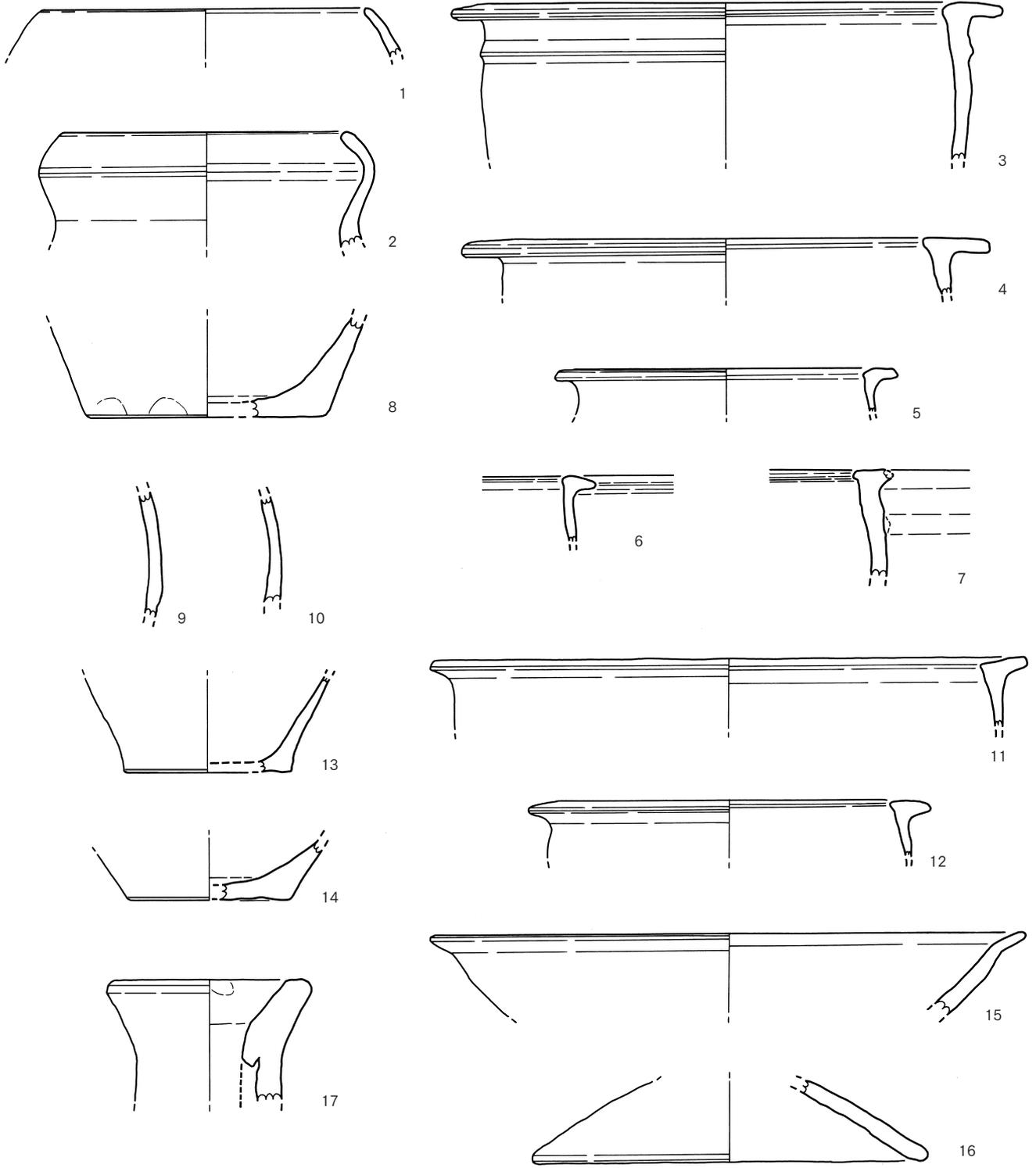
(3)包含層 (第6図)

包含層(⑧層)は溝の周辺に一部残る。溝より上の層にあたるが、出土遺物は溝とほぼ同時期のものが多い。地形は東に向かって下がり、本来ならば東端まで包含層が伸びていたものの、東端は道路敷設時に大きく削平されており残存していなかった。溝と同時期の遺物が出土するのは東側が低いため、西側から流れ込んできたためであろう。表面が摩滅した土器が多いのも同様の理由と考えられる。

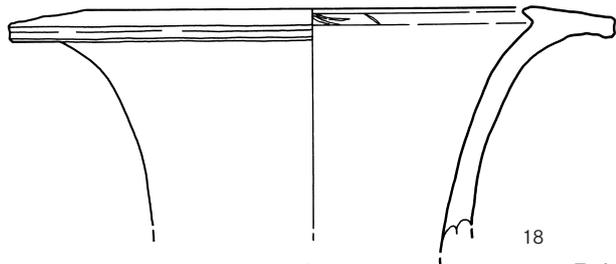
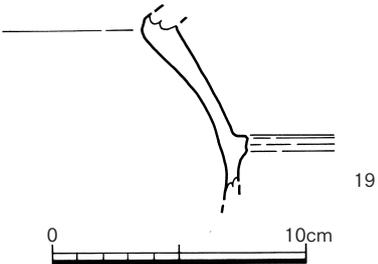
出土遺物 (第10図)

20～23は甕の口縁部。20は包含層から出土。復元口径29.3cmで逆L字を呈し、端部はやや下垂するかたちをとる。内外面に横ナデを施す。21は緩やかな逆L字形の端部を持つ。22は口縁端部を欠き、細い突帯を持つ。内外面をナデているが、やや不明瞭。23は口縁端部。内外面にヨコナデを行っている。24～27は甕の底部。24はやや小形の底部。25は屈曲部の角が張る。外面の調整は摩滅のため不明瞭である。26は胴部に向かって外反しながら開く。外面底部は二次焼成を受けており、内面にはコゲが見られる。27はやや大型の底部で、胴部に向かって大きく開く。外面にススが付着している。内面の調整は摩滅により不明瞭。28・29は器台の脚部である。28は器壁が厚く、内面にナデを行う。外面は他の土器と同じく摩滅のため不明瞭。29は28と比べて、やや丸みを帯びた形状で、胴部はやや細身に復元できる。内外面に指押さえが明瞭に残る。

(4)表採遺物

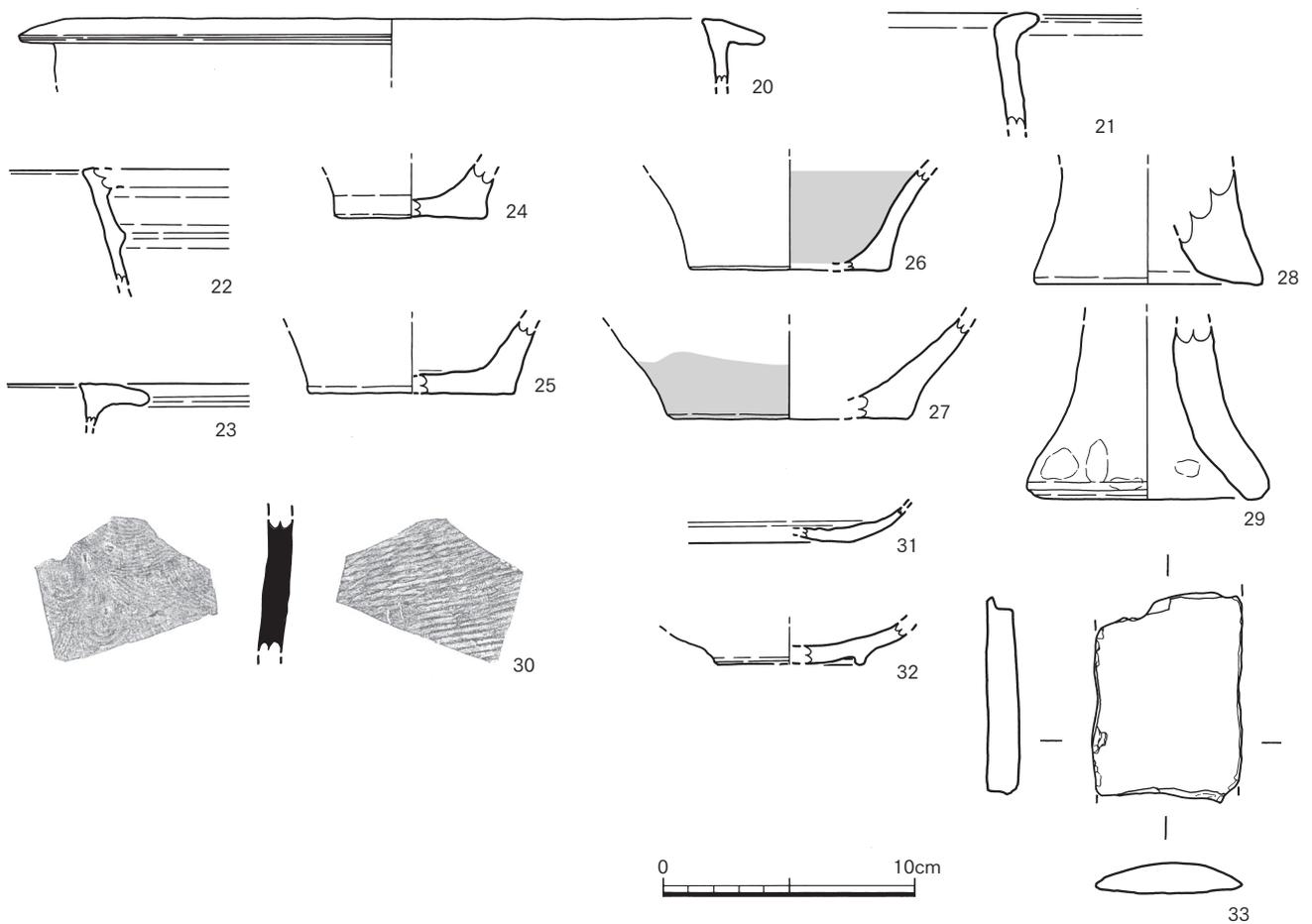


溝出土遺物



4号ピット出土遺物

第9図 出土遺物実測図1 (1/3)



第10図 出土遺物実測図2 (1/3)

30～32は表採資料である。30は須恵器の甕の胴部である。暗青灰色を呈し、外面は平行叩きで内面は同心円文の当て具痕が残る。北側で行われた第1次調査では、表土から須恵器が出土しており、南側に古墳時代の遺構が残る可能性がある指摘されていたが、検出することはできなかった。31は土師器皿で、回転ヨコナデを行う。底部は摩滅し、やや不明瞭ではあるが、ヘラ切りを行っている。32も土師器皿で、小さな高台が付く。外面は回転ヨコナデを施している。内面は黒灰色をしており、灯明皿に使用された可能性がある。33は包含層から出土した不明石器で、長さ8.2cm、幅5.8cm、厚さ1.2cmを測る。断面半円状を描く。湾曲する箇所は丁寧な研磨により綺麗な丸みを帯びる。一方、反対側の平面部は剥離したままで、加工は施されない。縁辺には割れが目立つ。石の目を意識した加工が特徴で石材は目視観察により層灰岩と考えたが、砂岩の可能性があると端野晋平氏(徳島大学)にご教示いただいた。

第4章 まとめ

蔵持寺ノ前遺跡第1次調査や周辺の調査では、中世の遺構を検出することが多かったため、今回の調査でも中世の遺構や遺物を期待していたが、大きく削平されていることもあり、ほとんど確認できなかった。本調査で注目できる点としては、旧地形に狭く浅い谷部が東西に2つあるという点である。これまで周辺で実施した調査では報告のない事例で、旧地形を復元する上で重要である。なお、土層観察では洪水砂層を確認した。東側約470mには雷山川が流れていることから、近くに支流などがあり、それらが氾濫していた可能性がある。

調査区内は地山面まで大きく削平を受けていたこともあり、浅い谷部の本来の深さを確認できていない。本調査区の南側など削平が少ないと想定される箇所では、より深い谷もしくは、埋没時の土層が残っており、遺構や遺物が検出される可能性がある。

また、弥生時代中期後半の溝も浅いものではあったが、1基確認している。調査区外、南側に延びようであり、近くで発掘調査となった場合は注意が必要である。出土した土器の内外面は摩滅し、調整が不明瞭なものが多いことから近隣から流れてきたものと推測できる。

今回の調査では第1次調査と同様に表土で須恵器を採集しており、近くに古墳時代の遺構が存在する可能性がある。周辺で古墳が多く確認されているが、同時代の集落が調査された事例が非常に少ない。集落を確認できれば、当地における古墳と集落の動態を考える上で貴重な資料となるだろう。



蔵持寺ノ前遺跡上空から雷山川方面を望む

圖 版



1-1 蔵持寺ノ前遺跡全景（南東上空から）



1-2 蔵持寺ノ前遺跡第2次調査調査区全景（上空から）

図版 2



2-1 蔵持寺ノ前遺跡第2次調査調査区全景（南西から）



2-2 溝完掘状況



3-1 4号ピット遺物出土状況



9-1



9-2

3-2 蔵持寺ノ前遺跡第2次調査出土遺物①

図版 4





9-9



9-10



9-11



9-13



9-14



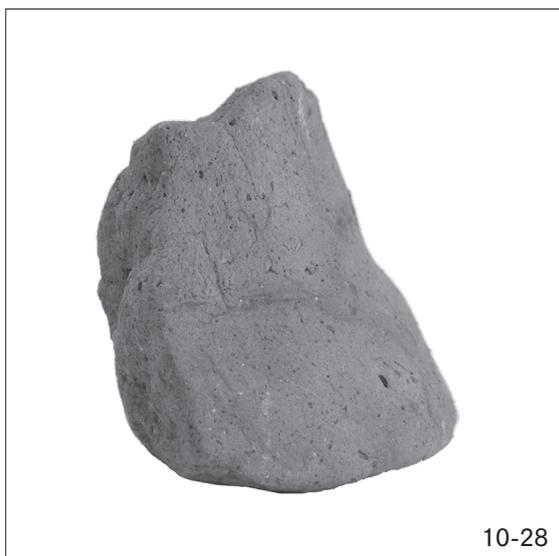
9-15

図版 6





図版 8



報告書抄録

フリガナ	クラモチテラノマエイセキ							
書名	蔵持寺ノ前遺跡							
副書名	宅地造成に伴う蔵持寺ノ前遺跡第2次調査							
巻次								
シリーズ名	糸島市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第32集							
著者名	秋田雄也							
編集機関	糸島市							
所在地	〒819-1192 福岡県糸島市前原西一丁目1番1号							
発行年月日	令和6年(2024)3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
蔵持寺ノ前遺跡	糸島市蔵持	40230		33° 53' 58"	130° 22' 05"	2022/11/2 ~ 2023/2/20	476㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
蔵持寺ノ前遺跡	集落	弥生 古墳 中世	溝、ピット	弥生土器、土師器、 須恵器、石器				

蔵持寺ノ前遺跡

—宅地造成に伴う蔵持寺ノ前遺跡第2次調査—

糸島市文化財調査報告書 第32集

令和6年(2024)3月31日

発行 糸島市
福岡県糸島市前原西一丁目1番1号
TEL 092-332-2093

印刷 (株)重富プラス
福岡県糸島市前原東三丁目1番8号
TEL 092-322-0191 FAX 092-324-2661

